

令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	上回った	同等	同等	上回った	上回った	同等
埼玉県	63.6	62.7	60.8	63.9	63.0	56.5

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	6-B	7-C	7-B	5-B	6-B	6-B
埼玉県	6-C	7-C	7-B	5-C	6-C	6-B

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小		3	2		2	1
埼玉県		3	2		2	1

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県
深谷の子の誓い	・将来の夢や目標を持っている	92.7	86.8	92.8	86.5	92.4	81.9
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	90.2	82.6	82.9	75.5	86.1	74.3
	・はっきり挨拶をすることができる	98.8	80.3	91.4	77.4	94.9	77.7
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	89.0	82.1	87.1	81.8	92.4	85.8
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができる	96.3	86.4	90.0	84.6	92.4	85.0
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	50.0	45.6	58.6	43.3	53.2	45.2
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	43.9	55.0	65.6	59.4	59.5	58.4
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	39.0	27.3	31.4	20.0	27.8	17.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	63.4	70.2	75.7	72.1	77.2	76.1
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	86.6	76.2	81.4	69.0	82.3	64.9
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	74.3	73.3	75.7	68.0	70.8	65.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	78.0	77.6	78.6	77.0	72.1	75.6
	・授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	18.4	16.8	7.9	16.4	22.8	17.8
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	61.0	24.8	48.6	24.3	51.9	24.0
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	95.1	90.4	95.7	91.7	93.7	92.6
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	93.9	90.6	94.2	92.3	97.5	92.0
	・学級での生活は楽しい	97.6	93.6	92.9	91.2	88.7	90.0

【質問紙分析】

- ・「はっきり挨拶をすることができている」の割合が、県と比べて高いのは、「深小っ子150年の伝統」の1つである立ち止まり挨拶を意識して実践しているからだと考えられる。
- ・「地域の歴史や自然に関心をもっている」の割合が、県と比べて高いのは、地域人材を活用して深谷ねぎを育てたり、中山道見学を通してその歴史を尋ねたりするなどのふるさと教育を充実させているからだと考えられる。
- ・「授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた」の割合が、県と同様に低いのは、教師のICT活用スキルが不十分であることが原因だと考えられる。そのため、子供たちがタブレットを効果的に活用できるように、研修を通して実践例を学んでいく必要がある。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

- ・伸びが見られた学級では、学習規律を大切に、本時の目標を明確にした授業を実践するとともに、見届けを丁寧に行い、一人一人に応じた支援をきめ細かく行っていた結果だと考えられる。

【国語】

- ・伸びが見られた国語では、日々の国語の授業を充実させるとともに、全校で詩の暗唱に取り組んだり、読書指導を充実させたりしてきた結果だと考えられる。

【算数】

- ・伸びが見られた算数では、「ふっかちゃん夕焼け計算道場」での補充学習や、休み時間等を利用した個別支援により、基礎・基本の定着を図ってきた結果だと考えられる。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・チャレンジタイムで行っている「学力向上プロジェクト」問題へ取り組み、一人一人の学習内容の定着度を見極め、できるようになるまで繰り返し取り組んでいく。
- ・平均正答率の低い問題については、県が作成している「復習シート」を授業や家庭学習等で活用し、学習内容の定着を図っていく。
- ・算数では、学力レベルにばらつきがあるため、T.T（ティームティーチング）や少人数指導を工夫し、個に応じた支援の充実を図っていく。
- ・授業や家庭でのタブレットの使用頻度を高め、使用場面や使用アプリを考え、効果的に活用した学びを推進していく。